令和7年度射水市障がい者差別解消支援推進協議会 議事録

1 開催日　令和7年11月20日（木）午前11時08分～午前11時45分
2 開催場所　市役所本庁舎3階302会議室
3 出席者
〈委　員〉野村委員、片町委員、稲垣委員、福島委員、鷹西委員、平野委員
久保委員、野田委員、久々江委員、中道委員、清水委員
〈事務局〉福祉保健部 杉本部長、菓子次長、小見政策調整監、
黒川社会福祉課長、清水課長補佐、岩脇主査、松井主任
4 欠席者　入江委員、坂本委員、岡本委員、道古委員、菊委員

5 議題
障がい者差別解消及び障がい理解促進に向けた取組について 資料1

6 質疑応答内容

委員　：差別に関する相談・通報について、富山県全体のうち、どの市が多かったのかなど情報があるか。富山市が多いと思われるが、各市別の状況がわからない。射水市の相談がゼロであるが、ゼロがいいかどうかというと、周知されていないとゼロということもあり得る。相談しやすい場所が提供されているかどうかということもある。

会長　：広報もされていると思うが、何か情報があるか。

事務局　：県庁に広域相談員が2名常駐している。相談機関の連絡先として、本市でも、県のホームページとリンクを張るなど、周知の方法を検討したい。

会長　：県の会議でもこの資料を見ることがあるが、生活相談など、差別ではない内容が多い。ただ、生活上の苦しみの延長線上や裏に潜んでいるかもしれない。そういうものを相談員さんたちがつまびらかにしていくような作業をしているが、なかなか難しいと聞いている。

委員　：精神は、本人とコミュニケーションがとれず、家族が大変な思いをしているケースも多い。県の相談員として相談を受けたことがある。相談した家族が、その後、家族会員になって一緒に活動したりするケースもある。射水市でも精神障害がずいぶん増えているので、そういった相談会のような場を設けることができればいいと思うので、検討をお願いしたい。

事務局　：身体障がい者の数値が減っているのは、高齢による自然減と、更新（再認定）が必要な場合もあり、その結果減っているということは、ご承知の通りと思う。精神障害については、社会情勢や、家族状況の変化、当事者が支援をうけて手帳の取得に至る、社会での認知が進んできたといった結果、このような人数の増え方になっていると思われる。そのような中で、清水委員の提案は大変重く受け止めている。家族の負担を減らすことができるような意見交換の場であったり、あるいは、

こういったことができないかというご提案を頂いたり、厚生センターの協力を頂きながら、負担を減らせる体制を作っていけたらと思う。

会長　　：精神保健福祉手帳については、発達障害がベースの方も取得されるので、すべてが精神疾患とは限らないというところもある。その辺の判断は難しい。障害のある子どもの数が非常に増えている現状があり、今後影響が出てくるかなとも感じている。

委員　　：社会福祉協議会では、総合相談ということで「すてっぷ」を開設している。当初は引きこもりを中心にしていたが、ひきこもりだけではなく、他の要因が結構ある。生活困窮や、若い人だけでなく、高齢者の引きこもりも多い。最近増えているのは中高生の引きこもり。社協だけでは具体的な解決策を見出せないので、学校のスクールカウンセラーやソーシャルワーカーと連携している。社協だけで対応できないこともあるため、重層的支援体制で対応している場合もあり、今後も連携していきたい。

会長　　：差別と言うかはわからないが、私自身、ガソリンスタンドがセルフばかりになり困っている。大手石油会社のホームページを見ても「声をかけてください」とあるが、スタッフが出てこない。別の圏域で、総合支援協議会のような場から「高齢の方や障がいの方でも、当人が来たらガソリン入れてあげてください」というようなことをお願いして貰えないかという話があった。歩けない方、足の不自由な方、操作がよくわからない人がいたらすごく困るし、精神に障がいのある方でも、後ろに人が並んでいたらすごく焦ってしまったということを聞いたことがある。差別といえるかどうかわからない境目にあるようなニーズにも目を向けて考えていただきたい。